国際交流基金助成事業報告書

薬学部　４年次生　李　娜炅

1. はじめに

国際交流基金の助成により、2018 年 8 月 10 日～27 日までの 18 日間、マレーシアの Selayang での薬局インターンシップに参加したことについて報告します。

今回のインターンシップの目的は語学力の向上と、近年アジア諸国の中でも著しく発展を遂げているマレーシアの文化や医療事情に触れることでした。また、マレーシアは多国籍国家であるため、英語でのコミュニケーションが必須だろうと考え、英語力向上も兼ねて今回の渡航先に選びました。

2. マレーシア国内での言語と文化について

マレーシアでは様々な国籍の人が在住している、いわゆる多国籍国家なのですが、その中でもマレー系､中国系､インド系と大きく 3 つに分けられるそうです｡私が訪れた Selayang は特にマレー系とインド系が多く、その人々のほとんどがマレー語を話していました。彼らのほとんどが「自分はマレーシア人である」という認識でいますが、祖先がマレー系か中国系かインド系かによってそれぞれの国の母国語も理解していて、同じ系統同士ならば度々それぞれの母国語でも会話しているようでした。それだけでなく、銀行や市役所もそれぞれ別の建物があり、多くの人が自身の血筋の所へ訪れていました。中にはマレー系の市役所でムスリムでない私でも、スカーフの着用を求められました。多国籍国家であっても自身の血筋や祖先への価値観や身内意識はあるようでした。このように、様々な国籍の人々が暮らしているマレーシアですが、英語で頻繁に会話されている訳ではなく、特に地方では英語があまり話せない人も多かったです。ですので、日用品や医薬品などの説明書きには英語ではなく、その 3 カ国語で記されていることもありました。また、そこで話される英語も私の知っている英語とは少し違っていました。彼らの話している英語は“マングリッシュ”と言われるほど独特な言い回しと発音で、慣れるまでかなり苦労しました。また、国籍が違うことが宗教にも表れていました。主にイスラム教とヒンドゥー教による影響が大きく感じられました。マレーシア国内の所々にモスク(イスラム教徒の礼拝堂)と寺院があり、イスラム教徒は豚が、ヒンドゥー教徒は牛が食べられないので、チキンの料理店が多く見受けられたのもマレーシアならではだと感じました。また、宗教に関係する建物は見た目ですぐにどの国のものか分かるくらい違います。マレーシアの至るところに多く点在していますが、これらは信仰のためだけでなく、日本でいう公民館的な、同じ信者や血筋の人々の交流の場としても大切に守られていて、たとえ日本から来た私でもスタッフと共にその場に訪れると、親切に迎え入れてくれました。

今回私が通っていた薬局のスタッフにイスラム教徒が多かったこともあり、様々なモスクや博物館を訪れ、犠牲祭にも参加することが出来ました。特にモスクは都心だけでなく

地方にも多く建てられ、礼拝の時間になれば多くの信者でいっぱいで、時間外でも休憩所として利用する人も多く見受けられました。

今回の渡航を機にイスラム教について身近に触れ、学ぶことができたのは大変貴重でした。信仰するということがどう人々と生活に影響を与えるか、垣間見ることができたと思います。私は無宗教ですが、信者にとって宗教が自身の一部であり、当たり前の事であるということはとても刺激的でした。マレーシアは多国籍、多宗教で様々な言語が飛び交っていますが、生活の送り方や多少の価値観の違いはあるが、共に生きて理解し合える、と認識されていました。

マレーシアンカリー

ブルーモスク

犠牲祭にて

３．マレーシアの医療事情について

今回私は All Day Pharmacy という薬局で 2 週間過ごしました。この薬局は地域密着型の薬局で、規模は小さいですが数多くの薬があり、簡易なベッドも置いてありました。マレーシアでは糖尿病や脂質異常症の患者が年々増加しているようで、多くのマレーシア人が自身の体重だけでなく血糖値や血圧を気にしているそうです。この薬局にも血糖測定器と血圧測定器があり、手軽な価格で測定できるようになっています。皆 2～3 週間に一度ずつ測りに来て、毎回薬剤師のアドバイスを受けてから帰っていきました。マレーシアは熱帯雨林気候のためか、食事は基本的に味が濃く、香辛料のきいた炭水化物メインの料理とともに甘いミルクティーを飲む習慣があり、あまり野菜を口にしません。私も現地でそのような食事をし、はじめは油と砂糖が多く使われていることに驚きましたが、暑い中でずっ

と過ごしているとどうしても高いカロリーのものを好むようになっていきました。このような人たちに理想的な食事の摂り方を指導するのですが、多くの人にとってはサプリメントで賄うやり方が最も手軽で主流のようでした。そのため薬局にも様々な種類のサプリメントがあり、私も薬剤師の方から詳しく教えていただきました。ちなみにマレーシアでは病院にかかったとき、医師が直接薬を出すことが多く、この薬局では処方箋の扱いも調剤もありませんでした。それでも多くの患者さんが足を運び、薬剤師とゆっくり話ができるこの環境がとても素敵で、大変居心地の良い薬局でした。

今回の滞在で私はもう一つ別の医療事情に触れられました。それは、FREE Clinic でした。これはある地域内にある、病院、歯医者、薬剤師、看護師の人々、そして薬学生が協力して無料診療所を開き診療するというボランティア活動でした。月１回ほど行っているようで、私もこの活動に参加し主に計数調剤をしました。医師が出した処方箋通りに薬をまとめていき、数が合わなかったり処方に不具合があったりした場合には、指導薬剤師や医師との相談のうえで訂正するということもしました。この活動は地域の広場で行われるので、ほとんどの作業を機械に頼らず、原始的な方法で行いましたが、基本的なことを丁寧に早く済ませることの難しさを痛感しました。慣れない環境と言語の中、周りのスタッフが患者さんに優しく丁寧に接している姿に心から感動し、私もこのような活動にこれからも参加していきたいと思いました。

４．さいごに

今回の滞在では私が最初に予想していたよりもはるかに多くのことに触れることができ、充実したものになりました。このように実感できるのもすべて現地で私に接してくれた人たちのおかげであります。慣れない言語の会話の中でも、みんななんとかして伝えてくれ私の言っていることも理解しようと努力してくれた姿に胸を打たれました。私ひとりでは知りえなかったこと、できなかったことを全て体験させてくれたことに本当に感謝しています。マレーシアの文化や国民性、医療事情を知れたことよりも正直、彼らの優しさと振る舞いから大きな愛を感じられたことが、今回の滞在で一番意味のあるものでした。これを医療従事者としてのとしての振る舞いにつなげようと思わせてくれた彼らは、私の生涯の宝物です。

薬局スタッフと